

# 自然環境 (自然破壊への対応)



[環境配慮方針1-①] 都市の自然環境の保全・再生に努めます

## 取組み方針

緑と水の豊かな自然環境は、人々にうるおいを与える動植物とのふれあいの場、未来を担う子どもたちの教育の場として大事なものです。また、防災・避難機能や地球温暖化防止機能等多くの機能も兼ね備えています。このような多様な機能を有する自然環境と調和したまちづくりを進めます。



## 実績

植樹本数  
(高中木)

約 **14,000** 本



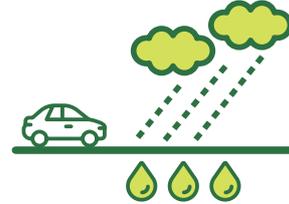
既存樹木の有効活用  
(高中木の保存・移植)

約 **260** 本



透水性舗装

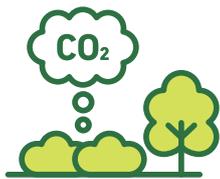
約 **30,600** m<sup>2</sup>



## 自己評価

ステークホルダーの意見を聞きながら、植樹や既存樹木の有効活用を進めています。また、透水性舗装を積極的に採用したことは、近年多発する豪雨対策に繋がると考えています。

今後も引き続き、地域の自然環境を良くする活動を推進していきます。



CO<sub>2</sub>年間吸収量※1

約 **3,300** t-CO<sub>2</sub>/年

CO<sub>2</sub>累積固定量※2  
(昭和31年～令和3年)

約 **319,600** t-CO<sub>2</sub>



※1 管理開始後30年以内の賃貸住宅内にある樹高3.0m以上の樹木を対象として算定  
 ※2 賃貸住宅内にある樹高3.0m以上の全樹木を対象として算定

事例紹介 「みどり」を核としたグラングリーン大阪のまちづくり

適応策 NEW

うめきたエリアは、一日の乗降客数約250万人を誇る西日本最大の鉄道ターミナルである大阪・梅田駅前にあり、高い交通アクセス性を有しています。かつて梅田貨物駅であったこのエリアで、産学官が連携し、国際競争力の高い知的創造都市に生まれ変わらせるプロジェクトを進めています。

URIは、先行開発区域からプロジェクト全体のプロデューサーとして、うめきた地区のまちづくりに取り組んでいます。現在手掛けているうめきた2期地区では、約8haに及ぶ、比類なき魅力を備えた「みどり」空間の創出や、ライフデザイン・イノベーションをテーマとした新産業の創出拠点の形成等による『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』の実現を目指し、土地区画整理事業、防災公園街区整備事業を推進しています。

令和5年2月、三菱地所株式会社を代表企業とするグラングリーン大阪開発事業者JV9社\*は、大阪駅北大深西土地区画整理事業区域内で展開する〔(仮称)うめきた2期地区開発事業〕のプロジェクト名称を、「グラングリーン大阪 (GRAND GREEN OSAKA)」に決定し、〔(仮称)うめきた公園〕約4.5haを含む約9.1haのプロジェクト概要を発表しました。

本公園は「未来へのひらめきと原動力となる『みどり』」をコンセプトに、敷地全体を一つの「みどり」の大地として捉えた一体的な設計をしています。南公園は都市的な空間、北公園は緑が多く自然豊かな空間とし、それぞれに水景や桜を配置することで、象徴的な風景を創出し、自然を楽しめる名所をつくります。最大高さ約3mのランドフォーム（緩やかな丘の地形）を、南北を跨いでうねるように配置し、奥行きや立体感のある多様な空間・景観を創出することで、様々な活動・体験を生み出します。

また、本公園は防災公園としての機能も備えています。大規模災害時に一時避難者の受け入れが可能なスペース約3.4haを確保し、緊急車両の円滑な進入を図るとともに、非常用照明、防災スピーカー、非常用トイレ（災害用マンホールトイレ）、備蓄倉庫等の防災施設を配置する予定です。

令和4年5月から公園工事に着手し、2025年大阪・関西万博開催に先立つ令和6年夏頃の先行開園、令和9年春頃の全面開園を目指して、事業を推進しています。



(仮称)うめきた公園 整備イメージ

提供：グラングリーン大阪開発事業者

事例紹介 「みどりとイノベーションを融合した拠点の形成」の取組み

URIは、うめきたエリアにおいて、令和2年7月から1000日間限定で、地域の方々や協力企業等と連携し、未来のまちづくりの実証空間として「うめきた外庭SQUARE」の活動を行ってきました。

3年目を迎えた令和4年度は、新たにDX推進にも取組み、将来完成する公園でリアルとデジタルの融合した新たな価値創造空間の創出等、先端的サービスの実証・実装を見据えたチャレンジを行いました。

「MIRROERGE UMEKITA TRIAL」は、VR/MR技術とメタバースが融合した仮想空間を体験するもので、VR/MRゴーグルを装着した参加者が、外庭に魔法をかける体験や離れた会場にいる参加者とバーチャル上でのコミュニケーションを楽しみました。また、URで作成した3D都市モデル体験会を行い、地域の方々に将来のうめきた地区をよりリアルに感じていただく場を設けました。

今後は令和6年夏頃の先行まちびらきに向け、外庭SQUAREで育んだ地域コミュニティや協力企業とのパートナーシップの仕組みの成果を活用し、『「みどり」と「イノベーション」の融合拠点』の実現を進めてまいります。



(仮称)うめきた公園の3D都市モデル



仮想空間体験の様子



社会実験イベントのフライヤー (提供：Tyffon Inc.)

▼詳しく知りたい方はこちら  
うめきた2期で防災公園街区整備事業を推進しています  
[https://www.ur-net.go.jp/west/press/hndcds000005lx5-att/20220516\\_umekita\\_2nd.pdf](https://www.ur-net.go.jp/west/press/hndcds000005lx5-att/20220516_umekita_2nd.pdf)

\*三菱地所株式会社、大阪ガス都市開発株式会社、オリックス不動産株式会社、  
関電不動産開発株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社竹中工務店、  
阪急電鉄株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、うめきた開発特定目的会社

▼詳しく知りたい方はこちら  
MIRROERGE UMEKITA TRIAL : Enchanted Garden  
[https://www.ur-net.go.jp/news/20221114\\_nishinon\\_umekita.html](https://www.ur-net.go.jp/news/20221114_nishinon_umekita.html)



# 都市の自然環境の 保全・再生に向けた取り組み

## 良好な都市景観の形成



### グリーンインフラを活用した計画・設計

環境負荷の低減や居心地の良い空間形成を図るため、周辺とのネットワークの形成を意識した広域的な視点で、グリーンインフラ（社会資本整備や土地利用等のハード・ソフト両面において、自然環境が有する多様な機能を活用し、持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくりを進める取り組み）を活用した計画・設計を進めています。

グリーンインフラを活用することで、UR賃貸住宅にお住まいの皆さまや地域の方々の心身の健康増進にも寄与します。そうした視点からのより効果的なグリーンインフラの活用についても検討しています。

▼詳しく知りたい方はこちら  
 自然の機能から生活基盤を作ると、持続可能な社会につながる？ UR都市機構が考える「グリーンインフラ」の価値とは  
<https://sdgs.yahoo.co.jp/pr/10.html>

### 透水性舗装、雨水浸透工法

UR賃貸住宅では、通路や駐車場等の舗装に浸透性の高い透水性舗装を採用しています。路面の排水効果が高く、水たまりがでにくいいため、歩行性等の向上が図れる他、浸透レンチや浸透柵等の雨水浸透施設と組み合わせることで、降った雨水を極力地下へ浸透させ、下水道や河川への集中的な流入を抑えることができます。また地下水の涵養を通して地域の水循環が確保され、生態系の維持に繋がる等総合的に環境負荷を低減しています。

### 保水性舗装によるヒートアイランド対策

保水性舗装は、舗装材が一時的に雨水を蓄え、その雨水が蒸発する際の熱吸収効果によって路面温度の上昇を抑制する機能があります。この機能により、日中の路面温度の上昇抑制や路床部分の蓄熱量低減による夜間の放熱抑制により、ヒートアイランド現象を緩和することが期待されます。

### 都市再生における公園整備

都市再生の推進にあたっては、民間事業者等と連携し、自然環境の保全や既存樹木の活用等環境に配慮したまちづくりを行っています。

都市公園は緑と身近にふれあえる憩いの場として、良好な都市環境を形成する重要な都市施設です。URIは、地方公共団体からの要請に基づき、都市公園を整備しています。令和4年度は5か所で整備を実施しました。

また、居心地よく使われる公共空間をつくるために、プレイスメイキングの考え方を取り入れ、利用者に将来の公園の使い方を感じていただく取り組みも行っています。

### 事例紹介 公園予定地における良好な都市環境形成に向けた取り組み

NEW

羽田空港跡地地区（東京都大田区）は、URが土地区画整理事業を施行しており、令和2年7月にまちびらきを行い、駅前広場、道路、業務・商業施設（HANEDA INNOVATION CITY）の一部が完成しています。地区内には、将来大田区が施設整備を予定している公園があり、URは現在公園用地の基盤整備を進めています。

URは、令和4年11月に天空橋駅前公園予定地で、プレイスメイキングの考え方を取り入れた社会実験イベントを開催しました。この社会実験は、「大田区の未来の公園の使い方を楽しむ日！」をテーマに、公園の使い方のアイデアを持った区民が出展者として参加し、その使い方を実際に試してみる企画です。

当日は、親子で楽しむヨガ体験、子どもが店長になって輪投げや射的等を出展する子ども縁日、一枚板に自由にお絵描きするライブペインティング、懐かしのパン食い競争等を実施しました。

出展者や来場者からは、「満足した」との感想が多く、「イベントが実施できる公園にしてほしい」、「泥あそび・水遊びのような普段家ではできないことをしたい」といった意見が寄せられました。

今回の社会実験により、地区内に公園ができることを知った来場者も多く、どのような公園になるか興味を持つ機会にも繋がっています。

社会実験の結果を踏まえて、居心地の良い公共空間の整備や良好な都市環境の形成に繋がっていきます。



ライブペインティング



親子で楽しむヨガ体験

▼詳しく知りたい方はこちら  
 羽田空港跡地地区の公園予定地で社会実験イベントを開催しました！  
[https://www.ur-net.go.jp/news/20221128\\_tohto\\_haneda.html](https://www.ur-net.go.jp/news/20221128_tohto_haneda.html)



### オープンスペースにおける緑の確保

UR賃貸住宅や都市再生事業におけるオープンスペースでは、多くの緑地を創出・再生しています。令和4年度は、新たに高木を約14,000本植えました。

### 屋上緑化による緑の創出

屋上緑化は身近な緑の空間を提供し、都市部のヒートアイランド現象を緩和するものです。URでは平成5年度から薄層土壌による屋上緑化の技術開発を行い、UR賃貸住宅等への屋上緑化を実施し、これまでに約16.4ha（東京ドーム約3.5個分）整備してきました。

### 賑わい等による地域の価値向上、都市への愛着や誇りの醸成

まちづくりにおいては、賑わいの形成を図る等地域の価値向上や、UR賃貸住宅にお住まいの方々の地域に対する愛着や誇りを醸成させるために、地域の自然、生活、歴史、文化等の特性や、樹木等の環境資源を積極的に活用しています。

URは地方公共団体が取り組む道路・公園整備や不燃化建替え等の促進を目的として進めている木密エリア不燃化促進事業により取得した土地を活用し、神戸市と協同で「地域コミュニティ醸成」や「密集市街地の解消」の可能性を検討するための社会実験を実施しています。UR保有地を兵庫県神戸市にお貸しし、市の事業者公募により決定した民間事業者が運営するコミュニティ農園を令和4年8月から開設しています。URの保有地を活用した地域のコミュニティ醸成を目指します。



貸し農園とコミュニティ広場が一体となった「みんなのうえんPARK」

## 既存樹木の有効活用（グリーン・バンク・システム）

UR賃貸住宅の建替えの際等に、既存樹木の有効活用（グリーン・バンク・システム）を積極的に行っています。長い年月をかけて育ててきたUR賃貸住宅用地内の貴重な緑を活用するグリーン・バンク・システムは、既存樹木を極力そのまま保存する、移植して同じ地区内で活用する、他の地区に移植して活用する等様々な事業において有効活用を進めています。伐採せざるを得ない樹木についても木材をベンチ用材等に加工して再生利用を行っています。

令和4年度は、泉北パークヒルズ竹城台（大阪府堺市南区）等での建替えにおいて既存樹木を活用した整備を行いました。

また、保存樹木を活用することを条件とした土地譲渡や、移管公園等の整備における保存または移植樹木の活用等、引き渡し先の民間事業者や地方公共団体との連携による既存樹木の有効活用も進めています。

## 生物多様性の保全・再生

URは、緑と水の豊かな自然環境を大切にし、人と動植物がふれあえる場や未来の子どもたちの教育の場を提供することを目指しています。また、自然環境は防災や地球温暖化抑制等多くの機能を持っており、それらの機能を活かしたまちづくりに取り組んでいます。

地域の特性を活かし、公園やUR賃貸住宅地内にビオトープ池等の施設を整備し、地域に住む身近な生物が生き続けることができる環境を保ち、生物多様性の保全に努めています。